

(参考資料)

関西西洋史研究会シンポジウム

2005/11/20

ホメオパシー信奉者たちにとってのジェンナーの「記憶」

—種痘をめぐるホメオパシー信奉者の言説—

服部 伸(同志社大学文学部)

E-mail:ohattori@mail.doshisha.ac.jp

I はじめに

- ・ホメオパシー
 - 医学博士ハーネマンによって考案された全体医学
 - 1820年代以降、欧米で根強い人気
 - 1960年代以降「オルタナティブ医療」として再評価
- ・治療の原則
 - 類似治療／希釈
 - 全体医学的立場←→科学的医学は分析的
- ・問題提起
 - 19世紀後半に、ホメオパシー雑誌に種痘記事が掲載された理由は突然現れ、また消えていった「記憶」

II 種痘とホメオパシー

1. 『ホメオパシー月報』にみる反種痘関連記事

(a) 『ホメオパシー月報』

- ・民間人信奉者協会組織の機関誌
- ・協会の活動記録
 - 教育・広報活動、政治活動、社会活動
 - ホメオパシー治療法指南
 - さまざまな医療関係記事

(b)種痘に関する記事

- ・種痘の有効性に対する疑問
- ・種痘による健康被害
- ・種痘ワクチンの肯定
 - 牛痘を使った天然痘治療
 - 種痘効果を高めるために硫黄
- ・種痘の「現状」への批判
 - 医師の知識・能力
 - 医師の倫理性
- ・「正しい種痘」「ジェンナーの後継者」
- ・種痘関連記事の消滅
 - 20世紀にはほとんど種痘関連記事は掲載されず

2. ホメオパシー信奉者への反種痘意識の広がり

(a) 『ホメオパシー月報』編集者 August Zöpplitz の特異性

- ・ 正統医学に対する強い不信感
- ・ 反権力、反権威
- ・ 編集辞職後も単独で反種痘運動

(b) ホメオパシー信奉者の反種痘運動

- ・ 『ライプツィヒ・ホメオパシー民衆新聞』
80年代、90年代に種痘関連記事
20世紀にはほとんど掲載されず
- ・ アメリカにおいても、19世紀後半に反種痘運動

III ホメオパシーを取り巻く状況

1. 種痘の普及

- ・ ジェンナーによる開発
- ・ 19世紀初頭にヨーロッパ各地に普及
主として軍隊、施療院など
予防効果に対する高い評価
- ・ ヨーロッパ各地での種痘強制化
ドイツ：強制種痘法(1874)
罰則を伴う法律、就学、徴兵に影響
→一般への種痘の普及

2. 外科の発達

- ・ 麻酔技術
- ・ 殺菌・滅菌技術
→手術成功率が高まる
- ・ より確実な手術のために
血液型の発見
X線の発見

3. 伝染病予防・治療

- ・ 微生物の発見
酵母菌
- ・ 細菌学の発展
炭疽菌、結核菌、コレラ菌、etc.
- ・ 血清療法
狂犬病

4. ホメオパシーの危機

- 19世紀前半にはホメオパシーの優位
コレラ流行
ホメオパシー：内服薬＋食餌療法
正統医学：瀉血、吐瀉剤、下剤など
- 19世紀後半に科学的医学の成功
- 種痘の普及は科学的医学の成功を実感させる
ホメオパシー信奉者もその効果を承認？
→正統医学の医師を批判しながらも、種痘を部分的に肯定
医師の「質」の問題にすり替える

5. ホメオパシーと科学的医学の棲み分け

- 20世紀には、雑誌掲載記事の変化
家庭内で治療の可能な・必要な疾病
ジフテリア、小児病、婦人病、etc.
科学的医学では治療困難な疾病
神経症的疾病、原因不明の疾病、etc.

IV おわりに

まとめ

- 近代的医学知に共鳴板をもつホメオパシー信奉者
- 正統医学との全面对決から棲み分けへの戦略転換期

今後の課題

- 他の雑誌・新聞における疫病記事の傾向と比較
- 死因統計との比較
- 日本の医学近代化過程における漢方患者との国際比較

参考文献

定期刊行物

- ① *Allgemeine Homöopathische Zeitung*. (1876-1935)
- ② *Homöopathische Monatsblätter*. (1876-1940)
- ③ *Leipziger Populäre Zeitschrift für Homöopathie*. (1870-1935)

文献

欧文

- ① Ausschuß der Hahnemannia: *Geschichte der Entwicklung der Homöopathie in Württemberg*, Stuttgart 1889.
- ② Ausschuß der Hahnemannia: *Aus der 25jährigen Geschichte der Hahnemannia*, Stuttgart 1893.
- ③ Haehl, Richard: *Samuel Hahnemann*, 2 Bde. , Nachdruck, Dreieich 1988.
- ④ Hattori, Osamu: Co-operation and Tension between Homoeopathic Lay Societies and Homoeopathic Doctors: the Homoeopathic Lay Movement in Württemberg during the Professionalisation of the Medical Profession, 1868-1921, in: Dinges, Martin (ed.): *Patients in the History of Homoeopathy*, Sheffield 2002.
- ⑤ Lücke, Manfred H.: Edward Jenner, in: v. Engelhard / Hartmann (hrsg.), *Klassiker der Medizin*, Bd. II, München 1991.
- ⑥ *Medizinal=statistische Mittheilungen aus dem Kaiserlichen Gesundheitsmate*, (Beiheft zu den Veröffentlichungen des Kaiserlichen Gesundheitsamtes), 1901.
- ⑦ Spree, Reinhard: *Soziale Ungleichheit vor Krankheit und Tod*, Göttingen 1981.
- ⑧ Wolff, Eberhard: *Gesundheitsverein und Medikalisierungsprozess*, Tübingen 1989.
- ⑨ Wolff, Eberhard: Sectarian identity and the aim of integration, in: *Britisch Homoeopathic Journal*, Vol. 85, April 1996.
- ⑩ Wolff, Eberhard: *Einschneidende Maßnahmen. Pockenschutzimpfung und traditionale Gesellschaft im Württemberg des frühen 19. Jahrhunderts*, Stuttgart 1998.
- ⑪ Zöpfer, August: *Licht in die Impffrage*, Stuttgart 1912.

和文

- ① 川喜田愛郎『近代医学の史的基盤』、上・下、岩波書店、1977年。
- ② 川喜田愛郎『パストゥール』、岩波新書、1967年。
- ③ シンガー、チャールズ／アンダーウッド、E. アシュワース『医学の歴史』酒井シズ／深瀬泰旦訳、朝倉書店、1985年。
- ④ 服部伸「世紀転換期ドイツにおける専門職としての医師—教育とステイタス—」（『西洋史学』174号、1990年）。
- ⑤ 服部伸「医師資格の制度と機能」（望田幸男編『近代ドイツ＝「資格社会」の制度と機能』、名古屋大学出版会、1995年所収）。
- ⑥ 服部伸『ドイツ「素人医師」団』、講談社選書メチエ、1997年。
- ⑦ 服部伸「ドイツにおける民間人のホメオパシー治療」（『社会科学』第74号、2005年）。
- ⑧ ベルセ、イヴ＝マリ『鍋とランセット』松平誠／小井高志監訳、新評論、1988年。
- ⑨ ユルゲン、トールワルト『外科の夜明け』大野和基訳、小学館、1995年。